

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

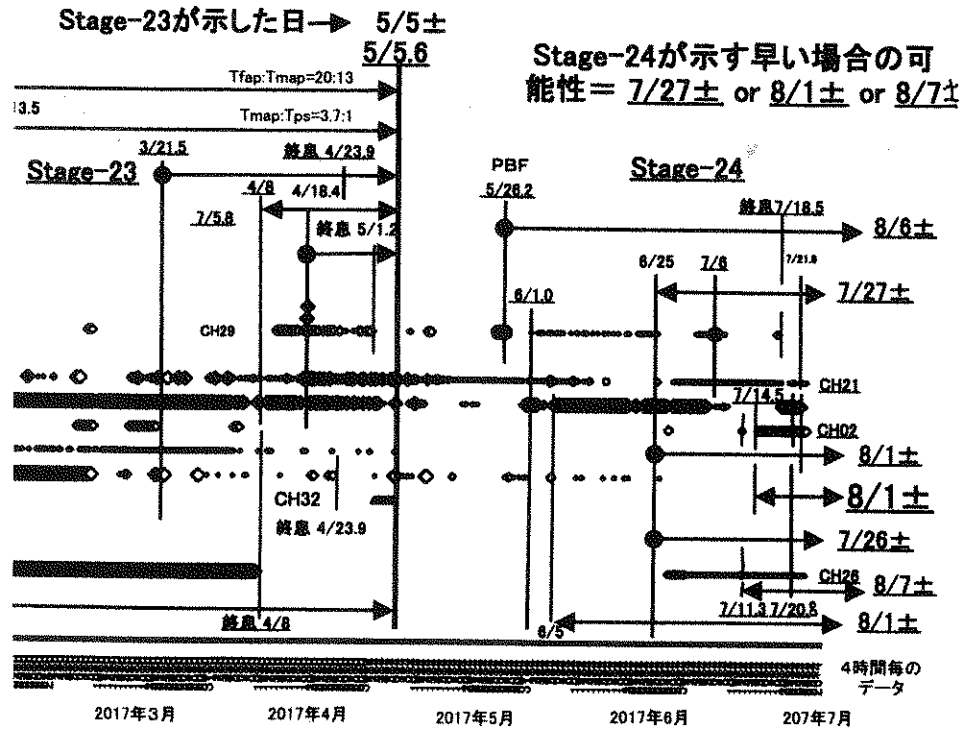
No.1778 長期継続前兆続報 CH17樞=終息 CH02・CH21・CH26 樞のみ継続  
7/25±の誤差内=7/27±他 8/1±・8/7± 3種の可能性検討

7/20.8極大に対する前兆終息時期と計算される推定発生日

|  |   |
|--|---|
| 長期継続特殊前兆No.1778前兆群第24行-ア。  | 下終息の場合→発生   |
| 7/19.0より糸状特異となったCH17は7/21.8終息。CH02・21,26前兆継続事実から7/26以前の可能性を否定。再考致しました。 | 7/25.6±→7/27±<br>7/26.4±→7/28±<br>7/27.1±→7/29±<br>7/27.9±→7/30±<br>7/28.6±→7/31±<br>7/29.4±→8/1±<br>7/30.1±→8/2±<br>7/30.8±→8/3±<br>7/31.6±→8/4±<br>8/1.3±→8/5±<br>8/2.1±→8/6±<br>8/2.8±→8/7±<br>8/3.6±→8/8± |

N型火山前兆変化より通常地震前兆経験則も含め検討してみました  
L型初現=7/2  
N型極大①=7/11.5  
N型極大②=7/14.5  
N型再出現=7/18.8  
1) 2014年御嶽噴火Tmap16日より  
7/11.5+16日=7/27±  
7/14.5+16日=7/30±  
2) 7/2初現~7/14.5極大=7/26±  
7/2初現~7/11.5極大=7/29±  
7/2初現~7/14.5極大=8/6±  
3) 7/14.5主~7/18.8副 =7/30±  
7/11.5主~7/18.8副 =8/7±

第24行-アを見直し7/26以前を否定した場合、考えられる前兆関係の可能性としてましては上図中に記入した関係の可能性が示唆され、7/27±・8/1±・8/7±の3種の可能性が否定できないことが示唆される結果となりました。関連の可能性が示唆される火山前兆の関係からは、左枠内のとおり、同様に7/27±, 7/30±, 8/7±の



3種の可能性が示唆されます。この3種の時期の範囲内である7/27~8/8 期間中に対応地震発生となる場合には、現在の最終極大認識=7/20.8以降極大が出現しないと仮定した場合は、左上の通りの時期に前兆が完全終息する可能性が示唆されます。前兆が完全終息したことが確認できた時点で、発生日を計算し、続報させて頂きます。なお、火山近傍での地震活動の可能性が示唆されますが、推定領域内火山でも白山の場合は伊豆局の特異から東側のみが限界となり、御嶽周辺の方が若干考え易い。

- ◆No.1778大型地震推定領域：右図  
点線領域内=大枠推定域 太線領域内=可能性考え易い  
斜線領域=火山近傍の可能性が示唆されるため参考推定域  
御嶽山・乗鞍岳・焼岳等周辺 (又は白山周辺) の可能性有
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (震源浅い日本列島地殻地震)  
※7/11~14の噴火前兆が関連している場合は、地震活動に関連して火山噴火の可能性も有。
- ◆推定時期：前兆完全終息を確認後推定予定  
現状の可能性=7月27日±or8月1日±or8月7日±  
(前兆完全終息次第発生日計算予定。続報に注意)
- ◇推定発時刻：午前9時±1 又は午後6時±3

